

優秀賞

心をつなげ合う家ぞく

三郷市立新和小学校 2年

金子 はるか

わたしはおじいちゃんといっしょにくらしています。おじいちゃんはやさしくてもの知りです。わたしがこまっているときにたすけてくれたり、分からないことをしつもんすると、すぐに教えてください。ものがこわれてしまってもあつという間になおしてしまいます。

元気ではたらきもののおじいちゃんですがひとつ心ぱいなことがあります。それは耳が聞こえづらいことです。わかいときは聞こえていたそうで、「ちゅうとしっちょう」というのだと教えてもらいました。

ぜんぜん聞こえないわけではなく、しづかなばしょならふつうにお話できます。おじいちゃんとおばあちゃんは手話をつかってお話ししていることもあります。わたしも「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」「おつかれさまでした」などを手話であらわすことができます。

おじいちゃんと話すとき、わたしは出来るだけゆっくりと、大きい声でしゃべるようにしています。おじいちゃんが聞き返さなくてすむようにです。よびかけても気づかないときは、やさしくかたやせなかをたたくようにしています。そうするとおじいちゃんは一っこりとふりかえって「なあに？」と言ってくれます。

この前、みんなでレストランに行きました。おじいちゃんはお店の人にライスかパンか聞かれたのですが、聞こえなかったのでおへんじが出来ませんでした。だからとなりにすわっていたわたしがかわりに聞いてあげました。わたしはおじいちゃんとおばあちゃんとおかあさんから「ありがとう」と言われてうれしかったです。

耳が聞こえづらいのはおじいちゃんのせいではありません。おじいちゃんがこまっているのを見ると、かわいそうだと思うこともあります。でも、そういうときこそわたしやまわりにいる人がたすけてあげればいいと思います。おじいちゃんがわたしにやさしくしてくれるように、わたしもやさしくして、大すきなおじいちゃんにずっとずっと長生きしてほしいです。